

異世界転生を夢想して

会員 間嶋 修平



1 はじめに

突然だが、私の趣味は、動画鑑賞である。アニメ・ドラマ・映画等、ジャンルを問わず幅広く鑑賞するが、中でも特に異世界転生アニメ（もっと細かく言えば、俺TUEEE系）が好きだ。司法試験直前期に、「異世界転生したら、自分もこんな風に最強になれるのでは…」と現実逃避で見始めたことがきっかけである。

早いもので弁護士として働き始めてもう1年以上が経過した。時折、異世界転生を夢想し現実逃避しながらも、無事に弁護士1年目を終えられたことに感謝して、この1年間を振り返りたいと思う。

2 所属事務所での活動

私の所属事務所は、顧問会社の案件を中心とした企業法務及び民商事の訴訟案件を多く取り扱っているが、それらの分野に限らず、一般民事・刑事事件まで幅広く取り扱う。顧問会社の業種も多種多様である。

私自身、この1年間で、売買基本契約・業務委託契約・システム開発委託契約・合併契約等の契約書、定款、利用規約、就業規則、社内外の業務文書、内容証明郵便等の各種通知書、法律意見書などの文書作成・リーガルチェック、コーポレート・ガバナンス、M&A、その他企業を取り巻く様々な法律問題（訴訟・紛争解決、建築、観光、知的財産権、独占禁止法、労働法等）、遺言・相続、相続財産管理等の一般民事、刑事事件など、挙げれば枚挙に暇がないほど、非常に幅広い分野の案件を経験することができた。

このような業務を通して感じたことは、弁護士は、文章を書く機会が多い反面、それが一番難しい仕事であるということだ。この1年間は、書面を作成する度に、それが真っ赤に染まって変貌する様を見て、自分の実力不足を痛感し、反省する毎日だった。もっとも、ボスや兄弁に助言を受けながら、数々の書面と向き合い、

最適な言葉を探して悪戦苦闘する中で、良い文章を書くためには、「読み手のことをどれだけ深く、真剣に考えられるか」に尽きることを再認識できたことは、この1年間で最も大きな収穫であったと思う。弁護士2年目は、1年目以上に、読み手のことを意識し、言葉1つ1つを大切に、目の前の書面と向き合っていきたい。

3 会務活動

私は、弁護士1年目から、中小企業法律支援センターに所属している。同委員会には、複数の部会・PTが存在し、私は、連携検討部会と働き方改革PTに参加している。連携検討部会は、公認会計士、税理士、弁理士等の各種士業との連携強化のための諸施策の企画、立案及び実施、働き方改革PTは、働き方改革関連法、中小企業庁WGその他の働き方改革関連の最新情報のフォローアップ、働き方改革の啓蒙活動、しわ寄せ防止対策を主な活動内容とする。

私は、中小企業法律支援センターでの活動を通して、中小企業法律支援や創業支援に関する知見を深めるとともに、多くの中小企業が抱える法的問題が必ずしも顕在化していないという実態を知ることができた。今後も、同委員会での活動を通して、自己研鑽を図るとともに、中小企業法律支援及び創業支援に積極的に取り組んでいきたい。

4 最後に

本エッセイは、“リレー”エッセイであるため、そろそろ次の執筆者にバトンを渡すこととする。次は、どうやら72期の会員にバトンが繋がるようだ。本エッセイが参考になったかどうかは定かではないが、次は、エッセイのバトンではなく、先輩弁護士として後輩に何か伝えられるように、これからも努力を続けていきたい。異世界転生をするその日まで。